

<p>スライド 1</p>		<p>情報モラル教育を意識した指導のための校内研修STEP1を始めます。●</p> <p>(使い方のヒント) ※「F5」のキーを押すと、スライドショーを最初から始めることができます。 ※「●」は、スライドを進めるタイミングです。原稿を読み進め、「●」の所で、クリックしてください。 ※「(問) …？」は、問いです。「(問)」の無いところでも、質疑応答しながら説明をする と効果的です。</p>
<p>スライド 2</p>		<p>校内研修を始める前にグループで、「情報モラルについて」のこれまでの指導の経験や内容、どのような指導をしたか、自己紹介を兼ねて、簡単にお話してください。● お一人30秒以内で、各グループの前の席の方から時計回りでお願いします。 (終了後) では、お一人司会を決めてください。 司会の方、後ほど、よろしくお願いします。●</p>
<p>スライド 3</p>		<p>本日の研修のめあてです。 情報モラルの指導の目標をしっかり理解します。 次に、研修用資料を基に、情報モラルの指導内容と実際の授業の関わりを考えます。 ●</p>
<p>スライド 4</p>		<p>STEP1の流れです。 始めに、岡山県の児童生徒の情報モラルに関わる実態について紹介します。 次に、情報モラル指導モデルカリキュラム表の内容を確認します。 そして、情報モラルを題材にした資料と、情報モラル指導モデルカリキュラム表との関わりを確認していきます。●</p> <p>***** ※時間があれば以下を紹介します※ (この「情報モラル指導モデルカリキュラム表」は、平成18年度文部科学省の委託事業により作成されたもので、文部科学省のWebページからダウンロードできます。情報モラルの学習内容を指導目標の形で系統的にまとめられたもので、指導すべき内容を一目で見ることができます。) *****</p>
<p>スライド 5</p>		<p>早速、岡山県の児童生徒の情報モラルに関わる実態について紹介します。●</p>

スライド 6

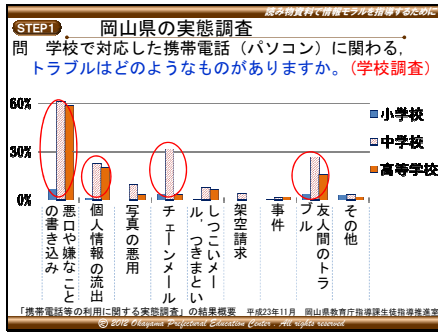
STEP1 岡山県のネットパトロールの報告

【期間】平成23年1月～平成24年1月

- 検知総数：10,114件
- 検知した投稿の9割近くが「個人情報の流布」
- 「いじめ・中傷」「不法行為」「トラブル」は、全体の約2%（約200件）

ネットパトロールの報告によると、この期間に検知した県内児童生徒から、と思われる問題のある投稿は、約1万件検知されています。多くが個人情報の流布でした。この個人情報の流布に関しては、ブログ・プロフといったサービスに関わるものが多かったようです。そして、検出総数約1万件の2%、約200件のいじめ・中傷、不法行為、トラブルに関する投稿があったことが分かりました。●

スライド 7



このグラフは、岡山県教育庁生徒指導推進室が平成23年度に実施した「携帯電話等に関する児童生徒の実態調査」の、学校への質問調査の一部です。学校で対応した情報モラルに関するトラブルについて尋ねたものです。●
 中学校や高等学校で、悪口や個人情報の流出、友人間のトラブルなどが目立ちます。このことから、小学校からの系統的な情報モラルの指導は、効果があるのではないかと考えられます。●

スライド 8

- STEP1 研修の手順
- (1) 岡山県の児童生徒の情報モラルに関わる実態を知ろう
 - (2) 情報モラル指導モデルカリキュラム表の内容を確認しよう
 - (3) 情報モラルを題材にした資料とモデルカリキュラム表の関連を確認しよう

次に、情報モラル指導モデルカリキュラム表を見ていきます。●

スライド 9

STEP1 「モデルカリキュラム表」

系統性

小学校・低 中学年 高学年 中学校 高等学校

情報社会の倫理

法の理解と遵守

安全への知恵

情報セキュリティ

公共的なネットワークの社会の構築

(問)このカリキュラム表を、ご覧になったことのある方はいらっしゃいますか？
 このカリキュラム表の一番上は、分類と表示されています。そこを横に見ていくと、左から「小学校1, 2年」「3, 4年」と、学年ごとに、示されていることが分かります。●
 ご自分に関わりの深い学年や学校種の欄をご覧ください。

このモデルカリキュラム表は、情報モラルの学習内容を五つの柱で表しています。

(問) 一つ目の柱は何でしょうか？ →「情報社会の倫理」●

(問) 先生に関わりの深い学年では、どのような学習目標が示されていますか？ →「…」

(問) 前のレベルの学習目標とでは、どのような違いがありますか？ →「…」
 前後の、指導の目標と比較すると、発達段階に応じて指導目標がステップアップしていることから、指導の系統性を意識できます。

この「情報社会の倫理」は、主に情報社会での責任や義務、権利などの内容を含んでいることが分かります。

(問) 二つ目の柱で、同じように見ていきます。二つ目の柱は何ですか？ →「法の理解と遵守」●

この後、時間を取りますので、同じように、見てください。

* 以下、実態に応じて、「安全への知恵」まで、質問を繰り返してもよい。

その他の柱についても、後ほどご覧になってください。●

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">KINYE 10</p>		<p>(問) カリキュラム表を参考にしながら、ご自分が担当されている学年では、どの内容をどのように指導しましたか? ●</p> <p>まず、各自で1分間、じっくりとご覧ください。その後、2分間で、グループで紹介し合います。</p> <p>時間になりました。どのような指導をしたか、指導内容について、紹介してください。時間は、2分間です。司会の方、お願いします。</p> <p>(2分後、適宜グループ指名 1~2グループ) このグループではどんな話題が出ましたか?</p> <p>似たような意見が出たグループもあると思います。 (予想される意見例) ・「携帯電話」や「インターネット」について指導した。</p> <p>モデルカリキュラム表を見ると、情報モラル教育の指導内容がよくわかります。●</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">KINYE 11</p>		<p>次に、モデルカリキュラム表を生かしながら、情報モラルを題材にした資料を読んでいます。●</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">KINYE 12</p>		<p>お配りしているのは、情報モラルを題材にした低学年対象の研修用資料『スマイルらいおん』です。</p> <p>資料の内容とともに、その内容が情報モラルとどのような関係があるのか考えながら読んでください。また、情報モラルの内容からみて、中心となる人物や場面等に線を引いたり書き込んだりしておいてください。</p> <p>2分、時間をとります。では、どうぞ。</p> <p>(2分後)時間になりました。●</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">KINYE 13</p>		<p>この資料の題材は、モデルカリキュラム表では、「b1-1: 人の作ったものを大切にすることを大切にする心をもつ」と関わりが深く、やがて著作権の指導等へつながっていく内容です。●</p> <p>この資料は研修に利用できるように分かりやすい構造で作成されていますが、例えば、道徳で情報モラルの内容を含む読み物資料を扱う場合でもモデルカリキュラム表との関連を確認することで、低学年から、実態に合った情報モラルの指導ができると考えます。●</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">KINYE 14</p>		<p>道徳の時間を例にとり、研修を進めていきます。ただし、全ての資料でこのような進め方ができるわけではありません。●</p>

<p>KINZYL 15</p>	<p>STEP1 (3)「モデルカリキュラム表」を生かして (ねらい) 人の作ったものを大切に 心をもつ。</p> <p>■ この資料のねらいに迫る中心となる人物は誰でしょう？</p> <p>中心となる人物の思いや考えを話し合う ことで、ねらいに迫ることができます。</p> <p>資料を基に考えましょう。</p>	<p>この資料の中心となる人物の思いや考えを話し合うことで、ねらいに迫ることができます。 (問) モデルカリキュラム表の「人の作ったものを大切に心をもつ」というねらいに迫る中心となる人物は誰ですか？</p> <p>(数人に指名) ※実態に応じて、登場人物を確認しておいてから進めてもよい。</p> <p>たくみくんですね。●</p>
<p>KINZYL 16</p>	<p>STEP1 (3)「モデルカリキュラム表」を生かして (ねらい) 人の作ったものを大切に 心をもつ。</p> <p>■ 情報モラルを指導する中心場面は？</p> <p>この資料には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況を設定する場面 ・中心となる人物が問題を自覚する場面 ・ねらいに、最も迫ることができる中心場面 <p>などがあります。</p>	<p>この資料では、状況を設定する場面、中心となる人物が問題を自覚する場面、ねらいに最も迫ることができる中心場面などがあります。</p> <p>(問) 「人の作ったものを大切に心をもつ」というねらいに迫る中心場面は①～④のどこでしょう？</p> <p>本文③の場面になります。●</p>
<p>KINZYL 17</p>	<p>STEP1 (3)「モデルカリキュラム表」を生かして (ねらい) 人の作ったものを大切に 心をもつ。</p> <p>■ 研修用資料の文章③の場面で、気持ちが変化したことが分かる場所はどこでしょう？</p> <p>資料を基に各自で考えた後、 話し合しましょう。</p> <p>(時間 1分)</p>	<p>中心となる人物、たくみくんの気持ちが最も変化したことが分かる場所を見付けます。まず、各自で考えてみてください。</p> <p>(30秒ほど間をあけて、)では、グループで共有します。司会の先生お願いします。</p> <p>(1分後、代表のグループを指名)●</p>
<p>KINZYL 18</p>	<p>STEP1 (3)「モデルカリキュラム表」を生かして (ねらい) 人の作ったものを大切に 心をもつ。</p> <p>■ このねらいに迫るために、どのような発問をすればよいでしょう。</p> <p>中心場面で、どのような発問をするか、 具体的に考えます。</p> <p>【発問例】クラスみんなの話を聞いて、 たくみくんはどう思ったでしょう。</p> <p>(時間 1分)</p>	<p>この資料で、ねらいに迫るために、先ほどの場面を使って、どのような発問をすればよいか、考えます。この【発問例】は、たくみくんが問題を自覚した場面の例ですが、このような具体的な発問を考えます。時間は、1分です。相談していただいてもかまいません。</p> <p>(1分後、指名)●</p>
<p>KINZYL 19</p>	<p>STEP1 (3)「モデルカリキュラム表」を生かして (ねらい) 人の作ったものを大切に 心をもつ。</p> <p>■ 「予想される児童の反応」を考えよう。</p> <p>考えた発問に対する、子どもの反応を予想します。 どのような反応が返ってきそうですか？</p> <p>(時間 各自 1分+グループ 2分)</p>	<p>最後に、先ほどの発問に対する、予想される子どもの反応を考えます。まず、各自で1分間考えてください。その後、2分間で、グループ内で紹介し合います。</p> <p>(2分後、代表のグループに指名)●</p>

研修用スライド 20

STEP1 読み物資料を活用する手順 (例)

資料を読む * 指導のねらいを確認

- 情報モラルのねらいとの関わり
- この資料のねらいに迫る中心となる人物
- 情報モラルを指導する中心場面
- 気持ちが最も変化したことが分かる場所

このねらいにせまるための発問

「予想される子どもの反応」

STEP1の後半では、モデルカリキュラム表と関わらせながら資料を活用するときの手順例を基に研修しました。この手順例を参考にさせていただいて、今後は、それぞれの先生方で、資料を基に、ねらいに迫るためにどうすればよいかを、発問レベルで考えるようにしていただきます。●

※本パッケージで利用している研修用資料については、中心人物を誰にするか、中心場面をどこにするかについて、スライドの中で明示しています。他の読み物資料を用いる場合は、協議に時間が必要な場合があります。資料の読みを深める大切な時間ですから、時間が許す範囲でしっかりと協議してください。

研修用スライド 21

STEP1 文部科学省の資料 (小学校)

文部科学省
小学校道徳
読み物資料集より

全29話

「みんなのニュースがかり」
「少しだけなら」
「レストランで」
「知らない間の出来事」
「幸せコアラ」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1303863.htm

文部科学省が平成23年3月にWebページで公開した小学校用読み物資料集では、29話中5話が情報モラルに関わる内容となっています。情報モラルを意識した指導をする上で、本日の研修を生かしてみてください。
例えば、最初の「みんなのニュースがかり」を例に挙げます。●

研修用スライド 22

STEP1 文部科学省の資料 (小学校)

内容項目 4-(2)
働くことのよさを感じて、みんなのために働く。

情報モラル指導モデルカリキュラム表
b2-1 自分の情報や他人の情報を大切に
する
c2-1 情報の発信や情報をやりとりする
場合のルール・マナーを知り、守る
(e2-1 情報には誤ったものもあること
に気付く)

みんなのニュースがかり

情報モラルについて考えさせながら、みんなのために働くことのよさを考える

「みんなのニュースがかり」を見ていただくと、
●この資料の、道徳のねらいは、「働くことのよさを感じて、みんなのために働く」です。この資料を見るとき、STEP1で行ったような手順を参考にしていきます。
●モデルカリキュラム表を見ると、「自分の情報や他人の情報を大切に」など幾つかの内容と関わりが深いことが分かります。
●したがって、このような内容と関連させながら、働くことのよさを考えることができるようにしていくことが大切です。

研修用スライド 23

STEP1 本日の校内研修のまとめ

■ 発達段階や実態に応じた系統性

■ ・ 資料活用の手順例
・ 各教科・領域等のモデルカリキュラム表と関連付けた学習活動

本日の校内研修のまとめです。
情報モラルの指導は、発達段階や実態に応じて、学校全体で系統的に行うことが効果的です。そのときモデルカリキュラム表が役に立ちます。

本日の校内研修では、例として道徳の読み物資料を活用する時の手順の例を示し、情報モラルのねらいに迫るための研修をしました。
各教科・領域等で、機会を捉えて指導するときも、発達段階や実態を踏まえ、各教科・領域等のねらいとモデルカリキュラム表を関連付けた学習活動を行うようにすることが大切です。

以上で、STEP1を終わります。

研修用スライド 24

STEP1

これで、研修を終わります。

お疲れさまでした。

これで研修を終わります。お疲れさまでした。

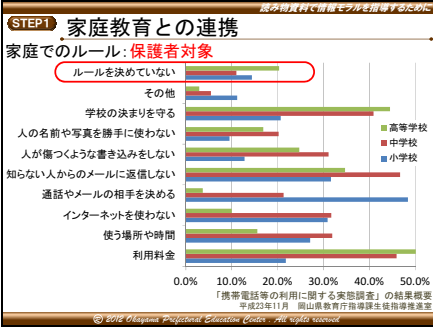
スライド 25

■ 参考資料

家庭教育との連携について

※ここからは、参考資料です。時間があれば、ご紹介ください。

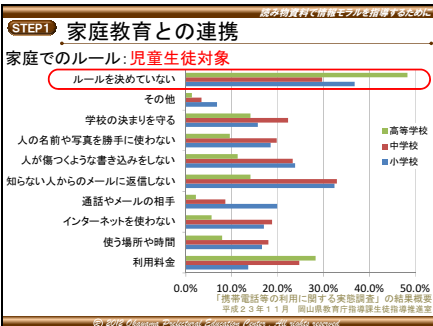
スライド 26



参考資料(家庭教育との連携)

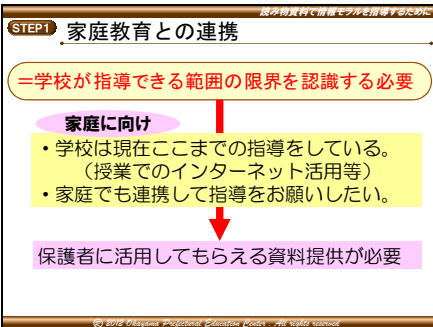
保護者を対象としたアンケート結果では、高等学校を例にすると、ルールを決めていないという家庭は20%であることから、80%の家庭はルールがあることになります。ところが、●

スライド 27



高等学校の生徒は、50%近くがルールを決めていないと捉えていることが分かりました。保護者と子どもとの間に意識のずれがあることが分かります。●

スライド 28



学校における情報モラル教育の重要性に変わりはありません。●
さらに、学校での指導内容や、家庭と学校のそれぞれの役割を説明することも大変重要であることが、研究者からも指摘されています。●

スライド 29

STEP1 携帯電話等を持たせている保護者に

「子どもの利用に関してしっかり関わってほしい。」という主旨のアドバイスは積極的に！

「安全への知恵」の視点から

- 無料のフィルタリング機能(法律で義務化)
- 安全・安心なら「通話機能とGPS機能」に限る

「法の理解と遵守」の視点から

- いじめメールは犯罪に。匿名でのメール、掲示板、ブログへの書き込みは、特定可能

トラブル事例の多くは、保護者がそれらを利用させた際に、児童生徒がどのように利用するかを十分検討しなかったことに起因します。インターネットや携帯電話を児童生徒に利用させる時に、守るべきルール、マナー、危険から身を守るための注意事項などを教える必要があることを保護者に理解してもらうことが必要です。●